

ベストアンサーを選ぶコメント x

← → ↻ https://detail.chiebukuro.yahoo.co.jp/qa/ba_confirm.php?qid=13217074723&anum=525232389 ☆ ☰

アプリ ダッシュボード - 建築金 NET+1 | 株式会社イン 生漆 - (株)築輪漢行 始まった「50」バブル相場 西松屋チェーン (西松屋) kin >> その他のブックマーク

お客様の仏壇の中に入っていた物なのですが何を…

やんぼーさん 2019/12/4 15:04:50

お客様の仏壇の中に入っていた物なのですが何を書いてあるものか分かる方いませんか？内容にたいして出来るだけ詳しく知りたいです。
宜しく願いいたします。



スタート KING-CAD*2000 - 監査 ベストアンサーを選ぶコメ... A 般 CAPS KUNO 17:47

ベストアンサーに選ばれた回答



mar*****さん

2019/12/4 15:15:19

「木仏安置御免(きぶつあんちごめん)」と書いてあります。

<https://www.kashiwakurake.jp/butsugura.html>

↑こちらを見ると、立派な仏像を置くときには、その宗派の本山の許可が必要だったとか。

元禄11年とありますから、西暦1698年。

由緒正しいお家、あるいは大地主や権力のある商人などのものなのではないでしょうか。

能登のうみやまブシ (西山郷史)

<https://umiyamabusi.hatenadiary.org/entry/20160812/1470987556>

<http://image02.wiki.livedoor.jp/i/i/iidamati/220051aba9402354.pdf>

昨年しんねんの春、中世ちゆうせいの役職やくしやく名を姓せいになさっているお宅におじゃました。いつものように、まずお内仏うちぶつさまにご挨拶あいさつした。お内仏うちぶつは御木像ごぎぞうだった。

今年ことし、750回忌かいぎを迎える親鸞しんらん聖人せいじんを開祖かいそとする浄土じゆつど真宗しんしゆでは、あらゆる衆生しゆじやうを救すくいとる「撰取せんしゆ不捨ふしや印いん」の仏さま(方便はんべん法身ぽうしん尊形そんぎやう)

現在いま、真宗しんしゆ寺院いんぎやうや道場だうじやうではほとんど御木像ごぎぞうを安置あんじしているが、これは、内陣うちじん、すなわち浄土じゆつどの荘嚴しやうげんの立体ていたい化けによるもので、もとは名号なごうか画像がざいを安置あんじしていた。画像がざい本尊ほんそんを継承けいじやうしてきた門信徒もんじゆたう住宅たくわでも、江戸えどの終わり頃ころには村役人むらやくにんクラスくらすの家において木仏きぶつを安置あんじする場合ばあいがあった。そのような家で

舞台

江戸初期えどしよきの在家仏ざいけぶつ



西山郷史にしやまさとし 真宗大谷派しんしゆたいやうはい西勝寺住職さいしやうじやう

は、本山ほんざんからの許可きよこ状じやうを軸じく装じやうにし、お内仏うちぶつの後ろうしろに掛けてかけておいておいてることが多い。その軸じくを見せてしやせていただいた。「宣如のんじゆ」「寛永八年くわんえいはちねん」の文字ふみじが飛び込こんできた。寛永八年くわんえいはちねんは1631年、江戸初期えどしよきである。しかも、「一楊庄いちやうじやう荒子村あらしむら道場だうじやう」とある。「一楊庄いちやうじやう荒子村あらしむらは尾張おわりの地名なで、前田利家まへだりけの出生地しゆしんちとされている。その真宗しんしゆ道場だうじやうの御本尊ごほんそんが珠洲しゆしゆの旧家きゆけに伝わつたっていたのだ。

それからまもなく、下町野しもまちの(輪島市りんじま)の名主家なぬしけに伝来でんらいした元和二年げんわに(1616)の御木像ごぎぞう、寛永十五年くわんえいごねん(1638)の御木像ごぎぞうと、立て続けたてつづけに江戸初期えどしよきの安置あんじ許可きよこ仏ぶつと巡り会あった。長年ながねんかけて築きぎ上げたつもりつもりだった「在家木仏ざいけぼんは江戸末期えどまき」はあっさり崩れ去やり、あらためて能登のうみやまの深い文化ぶんか土壌どじやうと在家仏教ざいけぶつじやうの豊かさとよかさに驚おどろいている。(珠洲市しゆしゆ)

2011年(平成23年)1月21日(金曜日)
北國新聞 夕刊

ファイルS1

門徒宅本尊（『伝説とロマンの里』第三章13

浄土真宗・真宗門徒のお内仏本尊は、たいていが「摂取不捨印」の画像（方便法身尊形）である。なかには、**本山からの木仏安置御免(ごめん)・許可を得て、木仏を安置しておられる門徒宅がある。**木仏が安置されるのは、仏壇がそろそろ広まり出そうとする**文化・文政期（一八〇四?三〇）、すなわち十九世紀以降のこと**が多く、許可されたのは、**当時の村役人クラスの門徒宅だった**

ところが、三崎町の泉家に、元和二年(一六一六)、大谷派本願寺第十三世宣如上人の「木仏御免」御木像があり、**伝蓮如上人作の阿弥陀像と伝承されてきた。**上人作を保証する加州住大仏師松井清寛の「極(きわめ)」書き（天保三年・一八三二）も同家に伝わっている。この仏像は有名だったらしく『珠洲郡誌』にも載っている。

また、若山町の小名主の多い地域の要の地である広栗に、中世の役人である「正司」姓の家があり、そこにも古い御木像がある。その許可状には「一楊（ひとつやなぎ）庄荒子村道場」「宣如」「寛永八年（一六三一）」などの文字があり、先ほどと同じく宣如代の寛永八年に授与された古い木仏である。寛永は、三代将軍家光のころにあたる。

ここに記されている庄および村名が驚くべき地名で、一楊庄は、伊勢神宮の御厨(みくりや)で一楊御厨とよばれた荘園、荒子村道場があった荒子村は、初代加賀藩主前田利家の出生地で、現在の名古屋市中川区南部にあたる。どうして珠洲の若山町に利家ゆかりの地の本尊があるのか？経緯は今となってはわからないが、あるいは、**利家が加越能を支配したとき、多くの中世的土豪がいる奥地に、尾張から前田家とともにやってきた人物を役人として派遣し、縁故の地の御木像を受けそのまま定住したのではないか？**などと、限りなく想像がふくらむ。それほどの古仏の存在である。この二つの御木像以外にも、寛永十五年(一六三八)下付(かふ)の木像も存在しており、寺号を持つまでもない、道場的な在家の存在があったのではないかと推察される。

同「能登の七刀祢・七岡田、庄司」

中世在地荘園の役人名を継承すると考えられる庄司家は、川浦町、三崎町
寺家、粟津、蛸島町などにあり、同様の系譜を持つと見られる正司家も、折戸町、
若山町広栗、宝立町宗玄、能登町松波にある。広栗の正司家は、加賀藩主前田利家の出身地である「尾張一楊庄荒子村道場」
の木仏本尊を有している。



木佛尊形

釋宣如
元和二 能長光寺
門徒 釋
※元和二年は1616年

町野川と珠洲、鈴屋、柳田・宇出津、曾々木・輪島へ向かう道が交差する要所に「助供家」がある。

平家伝説で知られる太谷町には時忠の子孫を名乗る則貞などの八名主がありその筆頭が助友と伝えられている。

この木仏は町野荘の要衝にある助供家にあったもので、泉家にあるのは何代か前の姻戚関係によるものという。

このようなご本尊の移動は、特に珍しいことではなく道場に本坊の前本尊があるケースもよく見られる。この地の橋を五里分橋という。

寛永の木像は、正司家と退転した十村・恒方家で安置していたものである。これも親戚家にあるのだが、いずれも写真には撮っていない。



寛文十年四月十一日
興宗寺門徒
安置御免
越前国足羽郡
朝谷村
釋琢如 願主 浄順妙念

寛文十年は1670年。この年東山大谷本廟が設けられた。この木像は、西勝寺のすぐ近くの家にある。来歴は不明。



広栗橋、広栗地内ここは四辻の要所であり、若山川の水運とも関わっている。



泉家



五里分橋

輪島、宇出津、飯田へ5里。それで五里分けなのだが、一般に五里五里橋と言っている。



木仏安置御免・貞享二年（1685）七月四日

ページ8にて写真

20日、家の歴史を調べておいでる御当主が訪ねてこられて、御内仏の写真を見せていただいた。^{注：1} その一枚。

木仏の向かって左に先のご本尊である六字名号が掛かっており、いわゆる蓮如上人（?証如）の草書名号である。

その家は、旧若山荘中心地の中心の家である。この木仏御免の年号が貞享二年であることに興味を持った。

貞享二年（1685）は、加賀藩がまとまった寺社由来（貞享の書上）を書き上げさせた年で、能登四郡は、羽咋郡が八月廿日、能登郡が七月十九日、鳳至郡が八月二十九日、珠洲郡が六月二十三日付けで書きあげている。この木仏は、珠洲郡が終わって間もなく免許となったものである。

同じ旧若山荘鈴内には、前田利家の出身地・尾張一楊（ひとつやなぎ）庄荒子村道場「宣如」「寛永八年（一六三一）」とある古い木仏もある。これは中世の役人名・正司を家名にする家であり、村の中心的姓を持つ家に貞享の木仏があり、まだ紹介していないが、別エリアの、やはり集落の本家筋の家には証如版・御文もあった。

加賀藩政に農民代表が十村や肝煎として関わっているが、そのような家には、本願寺からの木仏安置がステータスとしてあったのかも知れない。

時代は下るが、大谷派本願寺第十九世達如上人室が鷹司正熙の長女・依子で、次女の隆子が加賀藩第十一代藩主斉広（なりなが）だったことが思われる。藩・本願寺・門徒の関係は相当深かった。

雨池家



訪ねてこられた目的は、古い親戚である雨池家について分からないだろうか？

だった。

その家については、2009年のブログよみがえる岩坂村の旧家と題して紹介していた。

家そのまま残っていると思っておられず、大変驚いておられたが、調べられたのを聞いていると新たに分かったことがある。

雨池は、文政頃の記録では「甘池」家となっていた。

宝篋印塔は、雨池家墓地から移したのだそうだ。

などなど…

ページ7



注: 1

よみがえる岩坂村の旧家 (珠洲市)
旧雨池家 (以下2003年4月18日撮影)



「六字名号」は蓮如上人、実如上人、(證如上人) 筆?



解説はNO, 7

その他関連資料



重要な巻末。

実仲が、求めに応じて書をしたためた。
50首目が、前大僧正光朗（大谷派本願寺20世達如上人）
49首目が近衛内大臣基前公

48首目が平松前中納言将章卿

近衛基前公は、達如上人の長男宝如の妻増子の父。

単純に考えれば、達如上人・近衛基前公の需に応じて書をしたため
この追慕和歌は、お二方の求めて詠まれた…
ことになるのだが。



蓮如上人(銅像)



真宗大谷派山科別院長福寺境内